

天理教 江南支部だより

発行先
発行日
発行責任者
発行住所

江南支部
立教188年 6月1日
九里正昭
甲賀町神1750番地の1
7月号 N0300

第4回 ようぼく一斉活動日を開催

6月1日江南支部の「第4回ようぼく一斉活動日」が甲龍分教会を会場に開催されました。前日より支部の係員により準備が進められ、当日は心配したお天気も結構なご守護を頂き、過去最高の179名の参加者寄り集いました。

今回は、講師に幅下大教会長 伊藤芳正先生を迎え自身の体験を交え笑いあり涙ありの素晴らしいお話を聞かせて頂きました。この催しは、同じ地域に住まうようぼくが寄り集い、心を揃えて年祭に向かい勇んで歩みを進めようというもので、5回開催されます。最終回となる次回のようぼく一斉活動日も家族揃ってご参加いただけますようお願い申し上げます。

次回 第5回ようぼく一斉活動日 11月1日（土）



今月号より、見やすい紙面を目指して紙面を大きくしました。ご愛読ください。

朝の信仰読本 中山慶純著

にをいがけに大切なもの

数年前、ある知人が「布教の家」に入寮しました。

全国に十六カ所ある布教の家では、寮生たちが寢食を共にしながら、一年間、戸別訪問や路傍講演^{ろぼう}など布教活動に専念します。

未信仰の人たちににをいがけをし、信仰していただくことは、並大抵なことではありません。しかし彼は、別席者を毎月のようにおちばに連れ帰り、さらには修養科生もご守護いただいたのです。私は思わず「あなたのにをいがけには、何かコツがあるのですか？」と尋ねました。

すると、彼は「一番気をつけていることは、信仰を無理やり押しつけて、『何が何でも別席にお連れするんだ!』と思わないことです」と教えてくれました。続けて「まずは、悩みや不安にひたすら耳を傾けます。身上や事情を抱えて苦しんでいる人は、心にとげが刺さっているような状態だと思うのです。心の痛みが少しでも和らぐよう、

一本でも多くとげを取り除いて笑顔になっていただきたい。そのことだけを考えて、にをいけ・おたすけに歩いています」と、にこやかに話してくれました。

たとえば、心にとげが刺さったとき、放っておいたのに、いつの間にか抜けていた、という経験はありませんか。これは皮膚の新陳代謝により、外へ、外へと押し上げる力が働いて、自然と表面に出てくるからだそうです。

人さまのおたすけも同じです。身上や事情をお見せいただく原因の一つは、神様の思石に沿わない心づかいにあります。だからといって、その急所をいきなり指摘するのは、とげをぐいぐい押して、心をさらに痛めつけるようなものです。

人によっては、荒療治で心がパツと切り替わる場合もあるでしょう。しかし、未信仰の人へのにをいけ・おたすけでは、自然にとげが抜けていくような優しい働きかけが何より大切なのだと、彼の話を聞いて、あらためて思いました。

にをいがけに大切なもう一つのもの、それはたんのうの心です。戸別訪問に回っても、すげなく断られて、話を聞いてもらえないことがほとんどだと思います。また、路傍講演で声を張り上げて、足を止めて聞いてくれる人は少ないでしょう。心ない言葉を浴びせられ、落ち込むこともあるかもしれません。

でも、そんなときこそ、たんのうの心を治めて、喜んで通らせていただきたいものです。笑われ、そしられるたびに、「また一つ、私の心はたすかった」と思えば、勇んで歩くこともできずはです。そうやって通るなかで、「神様のお話を聞きたい」「おさづけを取り次いでほしい」と言ってくださる人が現れたら、喜びは何倍にも膨らみます。

人さまの目や耳に「天理王命^{てんりおうのみこと}」の神名が一度でも入れば、それだけで、その方のたすかりにつながる。私はそう信じています。

『みちのとも』より一寸いい話

廣 繁子 湖旬生分教会長夫人

私どもの教会では、教祖百四十年祭に向かい、「教祖のひながたを常に意識して通りましょう。ひながたの根幹は、つとめとさづけ」と毎日、心定めとともに唱和しています。私は教祖の「にこにこ、いそいそ」のお姿を常に心に置いて、一人でも多くの方を教会へ、おちばへとつなぎ、教祖のひながたをお伝えする心を定めました。

教会移転建築から34年、地域に溶け込もうと、会長を中心に在りがけをし、地域や学校の行事に積極的に参加してきました。ありがたくも、当時PTAでご一緒の方がよふぼくとなり、いまも教会の力になってくださっています。

教祖百二十年祭活動のさなかに民生・児童委員の委嘱を受け、教会が会議や研修の会場となって、地域の方々の出入りが増えました。現在も地区の役員を務めるなか、朝づとめや月次祭に地域の方も参拝してくださるようになりました。

地域に根づくのはうれしいことです。ただ、教会として「たすけ道場」という本来の役割が果たせているかと、にこにこ笑う心の内には悶々とするものがありました。

そんななか、昨年納めの自教会月次祭を目前に、会長が、急に嘔吐や言語障害、歩行困難などを発症し、救急車で搬送されて入院するという節を頂きました。会長は帯状疱疹を患っており、処方された薬が、透析患者の会長には強すぎたことが原因とのことでした。

月次祭は、上級教会長ご夫妻が臨席されるなか、後継者である長男が初めて祭主、祭典講話を務め、祭典後には上級の会長が芯となり、あらためて会長の身上平癒のお願いづとめを勤めてくださいました。

祭典開始に際しては、こんなときこそ勇もうと、信者の皆さんとに「一手一つ」の掛け声、「一丁締め」をして臨ませていただき、真実が結集したおつとめになりました。おかげさまで、会長は程なく退院のご守護を頂きました。

このたびの節によって神様から、成人を促す速達を夫婦そろってありがたく頂戴できました。悶々とした人間思案をおわびするとともに、三年千日の道中、中だるみした糸を張り直し、よふぼく・信者の皆さんと共に、「にこにこ、いそいそ」とおたすけに、おつとめに邁進する決心です。

信楽組がひのきしんデー追加会場として6月8日信楽病院でひのきしんを行なった。また、甲南組も5月10日やまなみ工房で実施した。



こどもおぢばがえり

少年ひのきしん隊員・カウンセラー募集

- 対象者 ・少年ひのきしん隊 中学生。小学生（4年生以上）
 - ・カウンセラー（高校生以上のようぼく）
 - ・サブカウンセラー（高校生以上）
- 期 間 ◎少年ひのきしん隊
7月31日（15時30分集合）～8月3日（17時 解散予定）
◎カウンセラー・サブカウンセラー
7月30日（17時集合）～8月3日（17時 解散予定）
- 内 容 ・ひのきしん ・お楽しみ行事
- 費 用 本部より支給
- 宿 舎 第9母屋
- 集合、解散場所 第9母屋
- 貸与物品 制服
- 持参物品 運動靴・着替え・洗面具・寝間着・入浴道具・保険証
- 申込み 7月20日までに、支部育成委員長 江南支部担当 橋本研一
(甲龍分教会 86-4728)

第2回 支部能登半島災害救援ひのきしん出動

江南支部は、6月10日から12日にかけて2回目の能登半島災害救援ひのきしんを行いました。女性、子供を含む7名が参加、草刈りを中心に作業を行った。

